

今月のテーマ

いよいよ夏本番、夏の交通事故に要注意

多くの自治体では7月から8月にかけて、「夏の交通事故防止運動」を実施しています。これは、夏のこの時期、開放的な気分による油断やレジャーなどで長距離を運転するドライバーが増加し、交通事故リスクが高まる傾向にあることから、都道府県ごとに取り組まれているものです。本格的な夏が到来した今だからこそ、夏の交通事故リスクについてしっかりと確認し、交通事故を起こさない、交通事故に遭わないための気構えを徹底しておきましょう。



夏の運転では渋滞、混雑、猛暑、ゲリラ豪雨などに備えを



交通量が増加し、事故リスクが増大

夏休みを利用して、人気の観光スポットやレジャー施設に出掛ける人や、故郷に帰省する人が増加するこの時期。車を運転して目的地へ向かうと考える人も多く、交通量は増加しやすい傾向にあります。交通量が増加するということは、その分、交通事故に見舞われるリスクが高まること懸念されますので注意が必要です。



運転や場所に不慣れなドライバーとの事故に注意

観光、行楽などを目的に、普段はあまり車を運転しないドライバーがハンドルを握る機会が増えるのもこの時期の特徴のひとつです。車の運転に不慣れなドライバーとの事故リスクには十分に注意が必要です。運転技術に自信がないというドライバーは、特に安全運転を心掛けるようにしてください。一方、熟練のドライバーは、運転に不慣れなドライバーに対する気配りをするように心掛けるようにしてあげましょう。また、行楽先などでは特に安全運転を心掛けるようにしてください。道路事情が分からない、見知らぬ土地での運転は、交通事故やトラブルに見舞われる可能性が高まります。このほか、周囲の景色について気が取られ、わき見運転をしてしまい事故に見舞われるといったことも想定されますので注意しましょう。



渋滞や猛暑によるイライラ運転には要注意

交通量が増加しやすい夏のレジャーシーズンは、道路渋滞に見舞われがちです。渋滞に巻き込まれると、つい気が立ってしまい運転が乱暴になってしまいやすいもの。また、うだるような夏の猛暑のせいで、イライラしてしまい運転操作が散漫になってしまうといったことも起こりやすいので要注意。渋滞や暑さからくる、イライラを解消するためには、心にゆとりを持つことが肝心です。目的地までの道路状況や気温、天候などを事前にしっかりと調べた上で、余裕のある運転計画を立てておくといいでしょう。



急なゲリラ豪雨への対策を



近年、夏場には局所的、突発的なゲリラ豪雨が全国各地で多発しています。行楽先や高速道路、山道などを走行中、思わぬ豪雨に見舞われてしまうといったことがあるかもしれません。急な大雨に見舞われた際は、前方車両との車間距離を十分に空ける、走行スピードを意識的に落とすなどの安全運転を徹底するようにしましょう。また、雨の勢いが激しい場合は、無理をせず、安全な場所に車を停車し、雨の勢いが弱まるのを待つことも賢明な判断と言えます。

発行者

上杉行政書士事務所 代表 上杉 麻美
神奈川県横浜市旭区左近山16-1 1-30-806
TEL&FAX 045-442-3592

行政書士法人シグマ 代表社員 阪本 浩毅
東京都中央区銀座一丁目13番1号
ヒューリック銀座一丁目ビル4階
TEL 03-6868-7256 FAX 03-6800-3604

ご用命・ご相談がございましたらお気軽にお問合せ下さい

一般社団法人 運輸安全総研トラバス
Mail tb@trubus.org ホームページ <http://trubus.org/>

トラ
バス